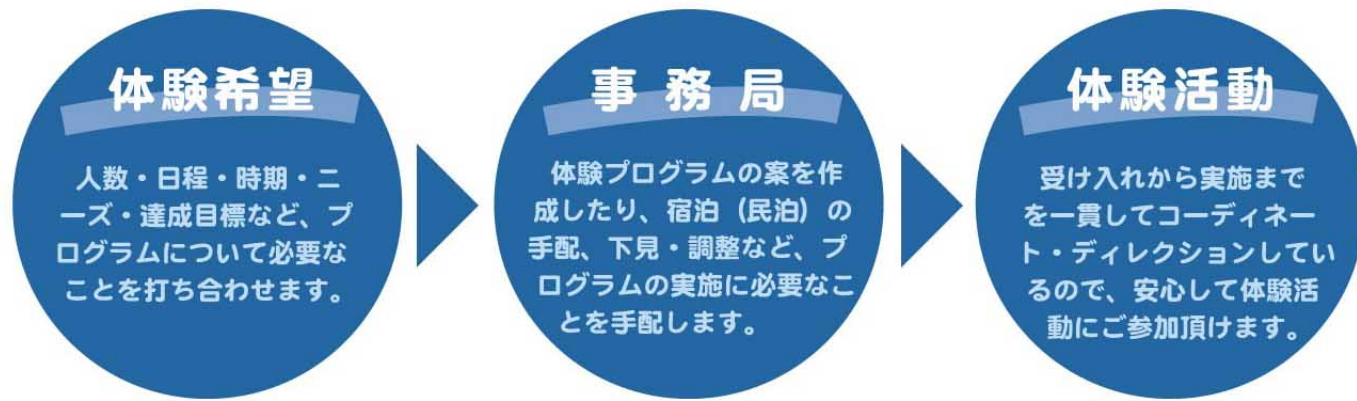


黒松内町 宿泊体験活動

プログラム受入れの流れ

宿泊体験をご希望の場合、次のような手順で滞在の間に行うプログラムを決めていきます。ご要望に合わせて最大限に効果的なプログラムを、地域を熟知したスタッフがご提案します。まずはお気軽にお問い合わせください。



黒松内町へのアクセス

黒松内へは札幌からおおよそ3時間の道のりです。日本海側を通過して海や余市・仁木町のフルーツ畑の景観や、ニシン漁が盛んだっころの面影を楽しめるルートや、風光明媚なシーニックバイウェイを利用して羊蹄山やニセコに広がる豊かな農村の景観を楽しめるルートがあります。また、黒松内にはJRの函館本線の駅（JR黒松内駅）もありますので、列車で訪れることもできます。



- お車で**
札幌から 約2時間40分
函館から 約2時間10分
新千歳空港から 約2時間
- JRで**
札幌から 約3時間
函館から 約2時間30分

黒松内町 子ども宿泊体験 交流協議会

黒松内町子ども宿泊体験交流協議会は、黒松内町、黒松内町教育委員会、地域住民、黒松内ぶなの森自然学校が協働して、運営する地域協議会です。

事務局 〒048-0192 北海道寿都郡黒松内町字黒松内299番地1 黒松内町役場産業課内

TEL **0136-72-3835** FAX **0136-72-3833**
mail m_kawakami@town.kuromatsunai.hokkaido.jp

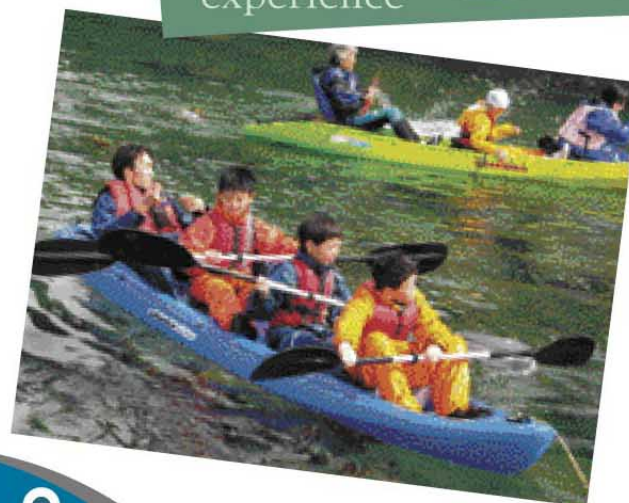
受入 〒048-0127 北海道寿都郡黒松内町南作開76 黒松内ぶなの森自然学校内

TEL **0136-77-2012** FAX **0136-77-2020**
mail buna_ns@d2.dion.ne.jp



自然体験

nature
experience



自然の中では体験と実践を

自然に身を置くことで、子ども達は教室で学んだことを実践的に試すことも、感性を最大限に発揮することもできます。

教室で学んだ知識が体験と結びつくことで、学びは立体的になり、発展性を得て新たな学びと気づきへとつながっていきます。

自然の中だけでも、教室の中だけでも実現できない学びと成長が、黒板と自然を往き来することで子どもたちの中に芽生えます。



黒板 自然

teaching in
classroom

教室の授業

教室では理論と考え方を

黒板と先生の話から子ども達が勉強できること。それは、先人たちが体験し、まとめて教科書に記載してきた物事の理論や分析された感性です。

自然科学のあらゆる事象の観察と分析、そこから生まれる理論。物事を感じて言葉や音や絵にする表現手法。これらは教科書にまとめられ、先生が黒板を通して解説するからこそ、効率的に知識として子ども達に伝えられます。

教室ではそうした先人たちの追体験を通して物事のとらえ方と理論と学び、知識を蓄えることができます。



農業で人と自然のつながりを

人々は自然の中から全てを作り上げてきました。圧倒的に多様な自然環境は、人が学ぶことの全てを含んでいると言っても過言ではないでしょう。

自然からの恵みを最も大きく感じられる体験のひとつとして、黒松内町では農業体験を推進しています。農業を通じて普段の生活では感じることでできない人と自然のつながりを学び、また、食べるものを育てることの大変さと大切さを学びましょう。教室の外で触れることのできる生の産業を感じてください。



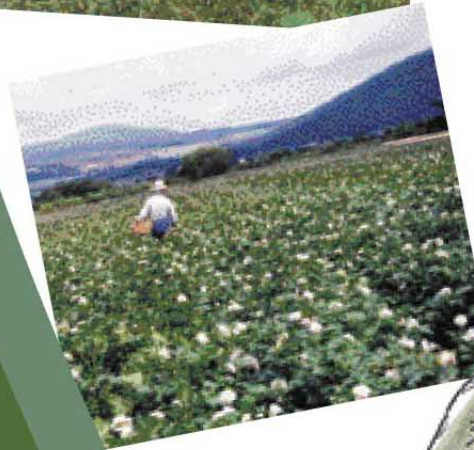
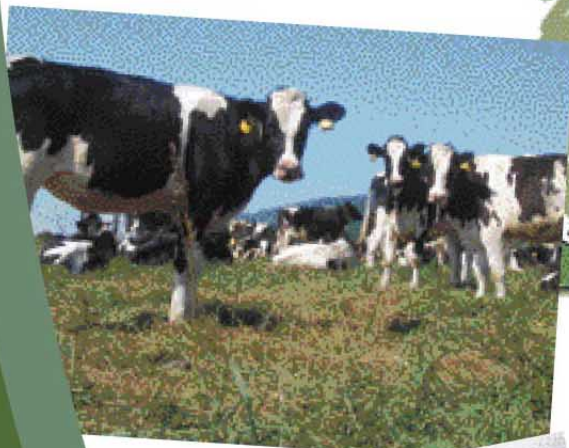


北限のブナの里 黒松内

黒松内町は人口3200人の静かな田舎町。主産業は酪農で、町中にのどかな牧場の風景が広がります。

貴重な自然の宝庫であり、ブナの北限の地としても有名です。町は、福祉・教育にも力を入れており、多くの社会福祉施設やサービスを展開する道内の先進福祉地域であり、また、地域ぐるみの教育が行われている地域でもあります。

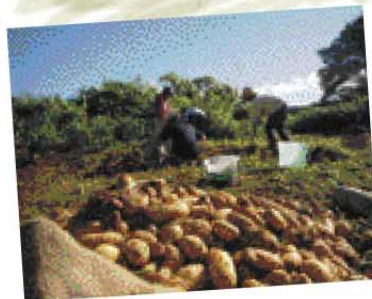
また、漁業の町、寿都（すつ）とも隣接していますので、農林水産プログラムの連動を図っています。



黒松内の農業体験

「よろしくお願いします!」と元気よく挨拶して、子どもたちは農家を訪れます。野菜の収穫や牛の世話など、手取り足とり教えてもらいながら一生懸命仕事をします。そうした実体験を通して、どうやって「食べもの」ができるか? それを、身をもって知ることができます。

そんな経験をさせてもらえる受け入れ先農家は、肉牛・酪農・畑作・水稻など、いずれも黒松内の大地で農業を営んでいる方々です。農家の仕事は四季によって移り変わります。例えば畑作農家なら、春は作付し、秋は収穫するなど、季節に合わせた農業を子どもたちは体験することができます。



体験に協力してくれる地域の生産者さんからの話 地域の人から

プロの仕事なんて絶対できないんだから、仕事の真似事でもいいんですよ。面白かった、もう一度ここに来たいと言ってくれたり、ふとしたときに毎日牛の世話のような大変な仕事をしている人がいるんだなって思い出してくれるだけでいいんです。何か大きな学びを得ようと期待してくると、どうしても構えちゃうし、そうなるこっちはサービス心ががんばらないといけなくなる。楽しい経験をして、単なる通過点ではない思い出を子どもたちの心に残したいと思っています。



楽しく学んで
いい思い出をつくらう!

肉牛・養豚農家
黒松内町 子ども宿泊体験交流協議会会長
小坂 錦一郎さん

黒松内ぶなの森自然学校

黒松内町のブナ北限の里づくり構想の一環で行政とNPO法人ねおすが協働して1999年に誕生しました。これまでに3~4週間にわたる長期体験、山村留学、通学合宿などの体験活動、指導者育成、地域と連携したプログラムの開発と実践に取り組んできました。運営にかかわるスタッフは自然体験の専門的なトレーニングを受けたインタープリター（人と自然、地域との橋渡し役）です。



アクティビティ例

多様なアクティビティで立体的、重層的な体験活動

黒松内の豊かな自然は様々な魅力的なアクティビティを可能にします。また、地域との協働によって産業とも結びついたアクティビティも豊富で、これらを組み合わせることで、多様な目的に合わせた効果的なプランを作ることができます。

1 天然記念物の森へ行く 歌オプナ林

黒松内自衛の天然記念物である北限のブナ林を3~4時間かけて歩きます。多層性の高い森の中で沢山の自然の不思議を発見する気持ちを育みながら、自然の中でめいっばい体を動かします。



ガイドが天然記念物のブナ林案内をしながら歩く。その中で自然とその仕組みをじっくりと体験できる。

人数	ガイド可能スタッフ×15名
時間	3時間30分
実施者	ぶなの森自然学校3~4名
場所	歌オプナ林
準備物	帽子、タオル、水筒、長袖スウェット、雨具
実施者	車輦、虫除け、小道具、F.A.キット
キーワード	針葉樹、広葉樹、植物の成長、北限、天然記念物、季節、感覚
適合教科	理科、社会、体育

4 献立は何にしよう？ アウトドアクッキング

ただ野外で調理するだけではなく、献立決めや食材集めをすることで、想像力を養います。グループで火炊しや調理をすることで、協調性や協力を身につけます。



真夏の下、グループで協力してかまどづくりと調理を時間内に進行。

人数	5~6名グループ×5 (約30名)
時間	5時間30分
実施者	ぶなの森自然学校
場所	自然学校内キャンプサイト
準備物	団体 車手、長袖スウェット
実施者	食材、通貨、計画表、火炊し器具、調理器具一式
キーワード	火の扱い方、流通、金銭感覚、料理、計画、生活体験、計算、献立
適合教科	家庭科、理科、社会、算数

2 黒松内を流れる清流 朱太川カヌー

日本海へ流れる緩やかな朱太川。仲間と協力してカヌーを漕ぎながら、川の流れや移り変わる風景を体感します。川の流れに身を任せ、ゆったりと自ら考えながら学びます。



ゆるやかに悠行しながら流れる朱太川。中流から日本海を目指して下る。

人数	2名×カヌー4艇
時間	2時間
実施者	ぶなの森自然学校4名
場所	朱太川 間伐河原〜河口
準備物	団体 化繊Tシャツ、ジャージ、雨具、濡れタオル
実施者	カヌーセット、箱めがね、ライフジャケット、車輦
キーワード	循環、流れ、水圧、浮力、水温と気温
適合教科	理科

5 土と水と太陽の力で育った 新鮮野菜の収穫

自らの手で収穫することで、野菜本来の姿を見て触って味わいます。そして、生産者の手間と愛情と責任を体感します。



その季節の生命力あふれる新鮮野菜を自らの手で収穫。農家の愛情と苦労を学ぶ。

人数	3~5名
時間	2時間
実施者	町内農家
場所	農家の畑
準備物	団体 車手、帽子、タオル、長靴、作業着
実施者	爪、はさみ
キーワード	植物の発芽と成長、地面の温かさ、湿り気、食べること、地理的環境
適合教科	理科、家庭科

3 気分は木工職人 間伐材でマイ箸を作ろう

普段何気なく使っている箸ですが、自分の箸自分で作ることを通して木を大切に作る気持ちを育みます。木のぬくもりを感じながら、ものづくりの楽しさを体感します。



間伐材の樹種を選んで、ナイフを使って彫る。自分のオリジナル箸づくり。

人数	15名
時間	2時間
実施者	木工職人
場所	テーブル等のある教室など
準備物	団体 ナイフ、ヤスリ、のこぎり、カッター板、バケツ
実施者	間伐材
キーワード	間伐材、森林、木の成長と種類、適材、刃物、リサイクル、エコロジー
適合教科	社会、理科

体験活動をやってみて 先生のお話

正直、はじめは無理ではないかと思っていましたが、実際にやるということになったので、野外活動をしたリオリエーションで「活動でやりたいこと」の心構えを聞くなどの準備を進めました。こうしたことは教師にとっても学びが深くなるポイントになると思います。

実施中は、森に川に海に民泊に野外宿泊、自炊と盛りだくさんで、実際の仕事に触れたい、勇気を出して1歩踏み出すといった心に残る体験ができたと思っています。特に民泊は忘れられない体験となったようです。

この体験活動は、学びを持ち帰るのが大切だと思います。鳥歌に戻ってからは体験したことを再現するなどの学習発表会をし、授業でも活かす場面を作りました。同じような自然や産業が実地元にもあるんだと気づき、地域と学校のつながりを意識できるようになりました。この体験活動で、これら地域と学校をつなげていくためのポイントに気付かせてもらえたと思います。

地域と自分たちの関わりが深まりました

せとな町立音楽小
荒谷 寛美 先生
(09年度実施)

農泊

体験と学びに ピリッとひと味

大きな目玉のひとつが、地域の生産者と協働して行う「農泊」です。農漁家での宿泊体験では、子ども受け入れ家庭とのふれあいや何気ない会話、作業の手伝いなどの体験を通して、子ども達の社会性や自立心、規範意識などを育みます。そして体験の中でも良いスパイスとして印象深い活動になります。

受け入れ家庭は事前に安全管理、衛生管理講習を行うなどのトレーニングを積んでいます。



●子ども達の声
農泊を体験した子ども達からは、教室の中では得難い成長の証が聞かれます。

大人になつて仕事をすると同時に、おじいさんのように自分の仕事に自信を持つて人になりたい (小4・男)

これまで好きではなかった牛にさわって、とてもうれしかった。これからも勇気を出していこうと鬼う (小4・女)

この大変さは、やっぱり人に分らないと鬼う (小6・女)

3泊4日 モデルプラン

地域をダイナミックに使って流れのある体験を

このように、用意できるたくさんの方のアクティビティや農泊などの地域との協働によって、流れのある印象深いプログラムを作ることができます。ここでは、森と海と人をつなぐ4日間のモデルをご紹介します。

